

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19653

研究課題名（和文）タンザニアにおける施設分娩時の「軽蔑と虐待」削減のための教育プログラム開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of Educational Program to Reduce Disrespect and Abuse of Women during Facility-Based Childbirth in Tanzania

研究代表者

下田 佳奈（SHIMODA, Kana）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：70803774

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、タンザニアにおける「Respectful Maternity Care」教育プログラムを開発することを目的として計画された。しかし、2019年度からのCOVID-19の世界的蔓延の中、円滑な研究計画の遂行が困難となった。研究期間内では、RMC実践に対する助産師の認識の実態を明らかにした。RMCを実践する専門職の能力とそれに対する助産師の認識を高め、具体的な行動としてイメージできる必要があることが明らかとなった。また、e-learningの教材作成を実施した。今後、これらの動画教材を複数の講義およびテスト等と合わせてプログラム化し、オンライン介入する予定とする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

助産師自身の視点でRMCの実践およびそれに必要な対策を認識することを可能とした。「助産」とはどのようなことを包括しているのかを学問的に深めていくことができ、実践に適応していくことができると考える。またそれによって臨床現場における『D&A』の発生の抑止また削減につながる。開発段階である教材を今後タンザニア国内で使用していくことで、さまざまな教育・臨床施設において拡大し、実施していくことができる。また、タンザニアでの実績をふまえ、開発した教育プログラムをその他の発展途上国に適用することで、汎用性の高い教育手法として発展させることができる点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study was designed to develop a "Respectful Maternity Care" educational program in Tanzania. However, amidst the global spread of COVID-19 starting in 2019, it became difficult to smoothly carry out the research plan. Within the study period, the actual situation of midwives' perceptions of RMC practice was clarified; it became clear that the profession's ability to practice RMC and midwives' perceptions of it need to be enhanced and imaged as concrete actions. In addition, e-learning materials were created. In the future, these video materials will be programmed together with multiple lectures and tests, and will be made into an online intervention.

研究分野：助産学

キーワード：Disrespect and Abuse Respectful Care タンザニア

1. 研究開始当初の背景

世界の妊産婦死亡数は年間約 30 万人と非常に多く、99%は発展途上国で発生しており、その半数が出産当日に起こっている (WHO, 2016)。これらの死亡の大半は、適切な分娩ケアによって予防が可能である。そのことから、専門的技能を持つ有資格者による、病院施設での分娩が強く推奨されている。しかし、発展途上国での施設における分娩では、産婦の人権を無視するようなケアが蔓延していることから、女性が医療者に対して不信感を抱くことが多く、医療へのアクセスが停滞しているという現状がある。このような医療者の行為は、『軽蔑と虐待(Disrespect & Abuse : D&A)』と呼ばれ、その実態を報告する研究が近年急増している。

タンザニアは、世界の妊産婦死亡の 70%近くを占めるサブサハラ・アフリカに位置し、2015年の妊産婦死亡率は出生 10 万あたり 556 と世界平均の 216 を大きく上回っている (NBS, 2016; UN, 2018)。病院施設において出産する女性は、全分娩の 50.2% (1991 年 : 52.6%) にしか満たず、この 20 年間増加がみられていない状態である (NBS, 1993; 2010)。病院施設で出産をした女性の 18 - 20%が、医療者から何らかの D&A を受けたと報告しており (Sando et al., 2016; Kruk et al., 2014)、さらに看護・助産師からの報告としては、96.1%が何等かの D&A を実施したことがあると回答している (Shimoda et al., 2018)。

2014 年、D&A に関して、世界保健機関 (WHO) は “The prevention and elimination of disrespect and abuse during facility-based childbirth” と称して声明文を打ち出しており、D&A が喫緊の国際的問題であることを示した。WHO は、国際的で科学的な D&A の定義および実態把握に不明確な部分が多いこと、測定用具が検討されていないこと、また教育方法を含む D&A 撲滅のための効果的な介入方法は何であるかが明らかでないことを指摘し、早急に研究を進めていくことを強く求めている。これらの国際的要請を受け、D&A の認識が測定可能な国際的尺度を開発し、かつ、D&A の抑止・削減を目指す介入教育を構築することが本研究における学術的問いである。いまだ確立されていない「女性を尊重するケア = Respectful Maternity Care (RMC)」の教育プログラムの開発により、臨床現場での看護・助産師をはじめ、基礎看護教育を担う大学教員や大学生における D&A についての認識を深めると同時に、タンザニアの看護・助産教育における今後の課題を見出していく必要があると考えた。さらに今後は、それらのプログラムを国内で普及させていくことが現場での D&A 抑止・削減につながり、RMC の実施・継続教育、および基礎教育のカリキュラム内への導入につながると期待できる。

2. 研究の目的

タンザニアにおける「Disrespect and Abuse (軽蔑と虐待)」削減のための「Respectful Maternity Care」教育プログラムを開発し、その効果と実行可能性を検証する。

3. 研究の方法

- (1)教育効果測定尺度の開発、現地研究協力施設の検討と対象医療機関との調整
- (2)教育プログラムの開発 (教材開発、研究計画書申請、対象医療機関への研究協力依頼)
- (3)教育プログラムの実施 (1 群前後比較)、プログラム実行可能性評価

4. 研究成果

本研究開始時の計画では、タンザニアにおける RMC に対する教育ニーズ調査を行い、その後実地で活用可能な教育プログラムの開発を検討していた。しかし、2019 年度からの COVID-19 の世界的蔓延の中、長期間に渡り渡航制限がかかる状況下において、タンザニアへの渡航が叶わなかった。加えて、最終年度における研究の中断および廃止の経過も生じた。そのため、研究期間中に研究場所および対象者の選定、現地での教材作成、プログラム介入およびその実現可能性を評価するまでに至らなかった。その結果研究期間内では、(1) RMC 実践に対する助産師の認識の実態を明らかにし、(2)オンラインでの教育介入を目指した日本国内での一部の教材作成を行った。

(1) RMC 実践に対する助産師の認識の実態

RMC 実践における現実的な対応策

2018 年 8 月、ダルエスサラームのムヒンビリ保健大学 (Muhimbili University of Health and Allied Sciences) にて RMC ワークショップを開催した。参加者 (N=52) は、臨床の助産師、助産師の資格を持つ大学院生、学部生であった。参加者にはディスカッションデータが使用されることを説明し同意を得た。

ワークショップは、講義、ロールプレイ、グループディスカッションの 3 つのセッションで構成された。講義では、Women-Centered Care (WCC) と D&A の概念が説明された。ロールプレイでは、臨床の場で実際に発生しているいくつかの D&A のシナリオを設定した。またその改善すべき点について、参加者全員で共有するため、元のシナリオの状況に参加者の考える改善点を含んだロールプレイを参加者自身が実施した。

ディスカッションデータからは、RMC 実践における現実的な対応策として、「政策立案者への働きかけの重要性」「チームとして活動することの重要性」「助産師の RMC 実践能力向上」「対象者と助産師の良好な関係の構築」「助産師自身を尊重すること」が語られた。ロールプレイという形式の教育方法については、自身が実際に体を動かして臨床現場に近い形で課題について熟考することができ、反省的思考を用いたディスカッションを可能としたと語られた。これらの結果の詳細については、国際助産師連盟アフリカ部会においてアフリカの助産師に広く公表を行った。

Humanized Childbirth および RMC に対する助産師の知識および認識

上記セミナーにおいて、開始前に質問紙調査が実施された。参加した全 52 名より回答が得られ、自由記載からは Humanized Childbirth および RMC に対する知識および認識が明らかとなった。

多くの助産師は、Humanized Childbirth とは「対象者の人権を尊重した出産介助を行うこと」「女性をモノではなく一人の人間としてとらえ、人権を意識した助産ケアを行うこと」「単に出産を介助することではなく、助産師が提供するケアが女性にとって喜ばれるものである必要がある」と述べていた。D&A の発生が多く報告されている現状がある一方、女性を尊重したケアに関する概ねの認識は持ち合わせていることが明らかとなった。しかし一方で、「女性を尊重するとは、妊娠 40 週の正期産児が問題なく娩出させ、胎盤を娩出させること」「RMC が何かわからない」「コメントできない」という意見も散見された。D&A の撲滅および発生予防のためには、RMC を実践する専門職の能力とそれに対する認識を高め、具体的な行動として助産師がイメージできる必要があることが明らかとなった。そのためには基礎および現任教育において徹底した RMC に関する教育と実践につなげられるシステムの構築が求められる。

(2) オンラインでの教育介入を目指した教材作成

当初の計画では、タンザニアの臨床現場における対面でのロールプレイ介入を含んだ教育プログラムの開発を計画していた。しかし、現地での調整と遠隔での研究遂行が困難であったため、e-learning での介入を見越した教材作成を実施することとした。e-learning で問題提起として使用する動画の作成を行った。妊婦健診および分娩場面の動画を作成、場面には「助産師が医療行為を行う前に同意を得ない」「要求に従わない産婦を叩いたり脅したりする」「産婦のプライバシーを守らない」「産婦が大きな声を出して陣痛を訴えていても無視する」などの D&A 行為が含まれた。同時にそれらの場면을 RMC 実践に置き換えた動画も作成した。作成前の動画構成、スワヒリ語原稿、および作成後の内容、教材のプログラム内における位置づけ、その他の教材案、動画教材使用方法に関して、タンザニアの共同研究者、臨床現場で働く助産師と協議を重ね、より現場に即した内容を目指した。今後、これらの動画教材を複数の講義およびテスト等と合わせてプログラム化し、前年度までに作成した尺度を用いてオンライン介入する予定とする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kana Shimoda, Sebalda Leshabari, Shigeko Horiuchi	4. 巻 20
2. 論文標題 Self-reported disrespect and abuse by nurses and midwives during childbirth in Tanzania: a cross-sectional study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Pregnancy and Childbirth	6. 最初と最後の頁 584
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12884-020-03256-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoko Shimpuku, Frida E Madeni, Kana Shimoda, Satoe Miura, Beatrice Mwilike	4. 巻 21
2. 論文標題 Perceived differences on the role of traditional birth attendants in rural Tanzania: a qualitative study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Pregnancy and Childbirth	6. 最初と最後の頁 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12884-021-03611-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kana Shimoda, Mariko Iida, Beatrice Mwilike, Sebalda Leshabari, Shigeko Horiuchi
2. 発表標題 The role-play workshop of Respectful Maternity Care in Tanzania: putting heads together to improve care during childbirth
3. 学会等名 the ICM Africa Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Iida, Kana Shimoda, Beatrice Mwilike, Sebalda Leshabari, Shigeko Horiuchi
2. 発表標題 The Respectful Maternity Care workshop in Tanzania: gathering ideas to make changes
3. 学会等名 the ICM Africa Regional Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------